

別添 1

基本評価シート
様式

(秋田県 生活環境部自然保護課)

基本評価シート（ニホンジカ）

1. 事業の基本情報

事業名（※1）	指定管理鳥獣捕獲等事業（直営）		
	令和5年度ニホンジカ捕獲対象地調査業務委託		
	令和5年度指定管理鳥獣捕業務委託（捕獲）		
都道府県名	秋田県	担当者部・係名	生活環境部自然保護課・鳥獣保護管理チーム
担当者名	藤原 一樹	担当者連絡先	018-860-1613
捕獲実施事業者	一般社団法人秋田県猟友会（認定を受けていない）	予算額（※2）	14,846,838 円
		予算額の内捕獲に要する経費（※3）	1,766,345 円

（※1） 交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

（※2） 予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

（※3） 予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

○令和5年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標 （目標頭数などの数値目標）	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
24頭	9頭	37.5%

〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
不明	強力な捕獲圧を加え、被害を未然に防止	特に定めない
狩猟捕獲数	許可捕獲(有害)	許可捕獲（個体数調整）
34頭	33頭	未実施

○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

・越冬地を特定するための生息調査（林業研究研修センター）

2. 令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	本県では、ニホンジカは江戸時代まで各地に生息し、その後の狩猟圧により昭和初期までに絶滅したとされていたが、平成21年に死亡個体が確認されて以降、年々生息域が拡大し、目撃や捕獲頭数も増加している。 このため、令和3年度に策定した第二種特定鳥獣管理計画に基づき、ニホンジカの生息域拡大を防ぐため捕獲事業を行った。 【選択欄】 ☐ 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乗せした。 ☒ 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。 ☐ 効果的な捕獲手法の開発を行なった。 ※事業実施目的に最も近いものを1つ選択。
人材育成の観点	☒ 人材を育成するための配慮、取組がなされている。
実施期間	令和5年11月1日～令和6年3月15日
実施区域	県内全域
関係機関との協力	実施市町村及び県猟友会の協力のもと、生息調査と捕獲事業を実施した。また、市町村が行う有害捕獲との混同を避けるため、実施時期等の調整を行った。
事業の捕獲目標	(37.5%達成) = (9 実績値) / (24 目標値)
捕獲手法	【銃猟】 ☐ 誘引狙撃 ☒ 巻き狩り ☒ 忍び猟 ☐ モバイルカリング ☐ 夜間銃猟 ☐ その他 () 【わな猟】 ☒ くくりわな ☐ 箱わな ☐ 囲いわな ☐ その他 () ※1：各種猟法の定義は〇ページ参照、※2：複数チェック可
捕獲個体の確認方法	☒ 個体の身体の一部（尾など） ☒ 写真（詳細を記載：捕獲個体の写真及び捕獲調書の提出による） ☐ その他 () ※複数チェック可。
捕獲個体の処分	捕獲個体の処分について ☐ 全て焼却又は埋設を行っている。 ☒ 一部、食肉等への活用を行っている。 ☐ 一部、放置を認めている。 ※複数チェック可
環境への影響への配慮	わなによる錯誤捕獲について ☒ 錯誤捕獲の情報を収集している。 ☐ 錯誤捕獲の実態は不明である。 わなによる錯誤捕獲の未然防止について ☒ 錯誤捕獲の防止対策をしている。 （内容：冬期間の事業実施によるクマ錯誤捕獲の回避 ） ☐ 錯誤捕獲の防止対策はしていない。 鳥類の鉛中毒等について ☒ 鳥類の鉛中毒症例がない。 ☐ 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。

	鉛製銃弾について ☐ 全て鉛製銃弾を使用している。 ☒ 一部、非鉛製銃弾を使用している。 ☐ 全て非鉛製銃弾を使用している。
安全管理の体制	受託者である一般社団法人秋田県猟友会が安全管理規定等を定め、従事者研修会を実施している。
捕獲従事者の体制	【雇用体制】 捕獲従事者数：１８５人 （内訳） 正規雇用者： 人、期間雇用者： 人 日当制：１８５人

3. 令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標達成】	評価：未達成。越冬していると考えられる地域で痕跡調査、捕獲事業を実施したが、生息密度が低いこと、少雪により追跡が困難な状況だったこと、捕獲実施時期に越冬利用されてない地域があったことから目標に達しなかった。
	改善点：越冬利用している地域においても生息頭数が多くないため、捕獲効率を向上させることが難しいが、低密度下においては越冬地における捕獲圧強化が効果的であると考えられるため、引き続き、越冬利用している地域で捕獲事業を実施していく。
【実施期間】	評価：妥当。有害鳥獣捕獲との棲み分けのほか、足跡を追跡しての捕獲には狩猟期間（積雪期）が適している。
	改善点：特になし
【実施区域】	評価：概ね妥当。痕跡調査等からシカの越冬地として推定される地域で事業を実施している。
	改善点：研究機関と連携しながら、引き続き、ニホンジカが越冬利用している地域で事業を実施していく。
【捕獲手法】	評価：妥当。足跡等を追跡しての捕獲が主となるため、銃猟が適している。
	改善点：特になし。
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：妥当。県内で唯一の狩猟者団体が実施。
	改善点：特になし。
【個体処分】	評価：妥当。地元自治体のルールに従って処理している。
	改善点：特になし。
【環境配慮】	評価：妥当。特に環境に影響を及ぼす事象は発生していない。
	改善点：特になし。
【安全管理】	評価：妥当。事故等なく適切に実施している。
	改善点：特になし。
3. その他の事項に関する評価及び改善点	
特になし。	
4. 全体評価	
県内でニホンジカが越冬していると考えられる地域で痕跡調査と捕獲事業を実施し	

たが、少雪に加え、当年度にニホンジカが確認できず捕獲に結び付かない箇所があった。

ニホンジカは県内全域で目撃情報があるが、依然、越冬利用している地域は限られていると考えられ、分布域拡大を抑制していくためには越冬地において捕獲強化を図っていくことが効果的、効率的であることから、引き続き、事業を実施していく。

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

本事業の目標数は達成できていないものの、狩猟や有害捕獲と併せて、ニホンジカに対する捕獲圧強化が一定程度図られている。

県内での分布拡大や生息頭数の増加を抑制していくためには、引き続き、本事業による捕獲圧強化が必要である。

4. 必須となる記録項目

(1) データの整備状況

ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項 目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	☒ 行政区域（都道府県・市町村）ごと ☐ 事業区域ごと ☒ 5 km メッシュ（※） ☐ 1 km メッシュ ☐ 捕獲地点（緯度経度） ☐ 捕獲等に関する位置を記録していない	※当県では 3 km メッシュで管理
②捕獲数	☒ 捕獲した個体の総数 ☒ 雌雄の別 ☒ 幼獣・成獣の別 ☒ その他捕獲した個体に関する情報（胃の内容物等）	
③目撃数	☒ 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	☒ 銃猟：のべ作業人日数※ ☒ わな猟：わな稼働日数 (わな稼働日数＝わな基数×稼働日数)	

※のべ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図（地図）※についてチェック
捕獲位置の地図	☒ 5 kmメッシュ地図 ☐ 1 kmメッシュ地図 ☐ 地点（緯度経度）地図 ☐ 捕獲位置の地図を作成できない
CPUE の地図	☒ 5 kmメッシュ地図 ☐ 1 kmメッシュ地図 ☐ 地点（緯度経度）地図 ☒ CPUE の地図を作成できない
SPUE の地図	☒ 5 kmメッシュ地図 ☐ 1 kmメッシュ地図 ☐ 地点（緯度経度）地図 ☐ SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する 上での課題	本県では3 kmメッシュ地図により管理している。

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

（２）実施結果（必須となる記録項目）

ア) 捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数※1： 185 人日

事前調査人日数概数※2： 0 人日

出猟（捕獲作業）人日数： 185 人日

項 目	令和 5 年 （事業年度の値）	令和 4 年 （前年度の値）	増減の傾向
捕獲努力量（銃猟） のべ人日数	185人日	184人日	☒ 増加 ☐ 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

②わなによる捕獲

外業の人日数総数※1： — 人日

事前調査人日数概数※2： — 人日

出猟（捕獲作業）人日数： — 人日

項 目	令和 5 年 （事業年度の値）	令和 4 年 （前年度の 値）	増減の傾向

捕獲努力量（わな猟） わなの稼働総数（わな基×日数）	0 基日	4 2 0 基日	☐ 増加 ☒ 減少
-------------------------------	------	----------	--

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）人日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

イ) 捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項 目	令和 5 年 (事業年度の値)	令和 4 年 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	9 頭	1 2 頭	☐ 増加 ☒ 減少
②目撃数	1 7 頭	2 1 頭	☐ 増加 ☒ 減少
③雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)	5 / 9	3 / 1 2	☒ 増加 ☐ 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数／全捕獲数)	0 / 9	0 / 1 2	☐ 増加 ☐ 減少

令和 5 年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（銃器）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数※1	CPUE※2	SPUE※3
☐ 誘引狙撃	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ 巻き狩り	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☒ 忍び猟(注)	9 頭	1 8 5 人日	0. 049 頭/人日 ☐ 増加 ☒ 減少	0. 092 頭/人日 ☐ 増加 ☒ 減少
☐ モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ その他 ()	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少

※1：作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2：CPUE＝捕獲数／のべ人日数

※3 : SPUE＝目撃数／のべ人日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

注) 忍び猟と巻き狩りを併せた数値 (特段区分して集計していないため)

②わなによる捕獲

項 目	令和 5 年 (事業年度の値)	令和 4 年 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	0 頭	3 頭	☐ 増加 ☒ 減少
②雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)		1 / 2	☐ 増加 ☒ 減少
③幼獣・成獣比 (幼獣数／全捕獲数)		0 / 2	☐ 増加 ☐ 減少

令和 5 年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数※ ¹	CPUE※ ²
☐ くくりわな	頭	基日	頭/基日 ☐ 増加 ☒ 減少
☐ 箱わな	頭	基日	頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ 囲いわな	頭	基日	頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ その他 ()	頭	基日	頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少

※1: わな稼働総数には捕獲を実施していない誘因期間は含まない。

※2: CPUE＝捕獲数／わな稼働日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

エ) 捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数： — 人・時間（1 頭あたり）※人工は算出していない

処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数： 9 個体

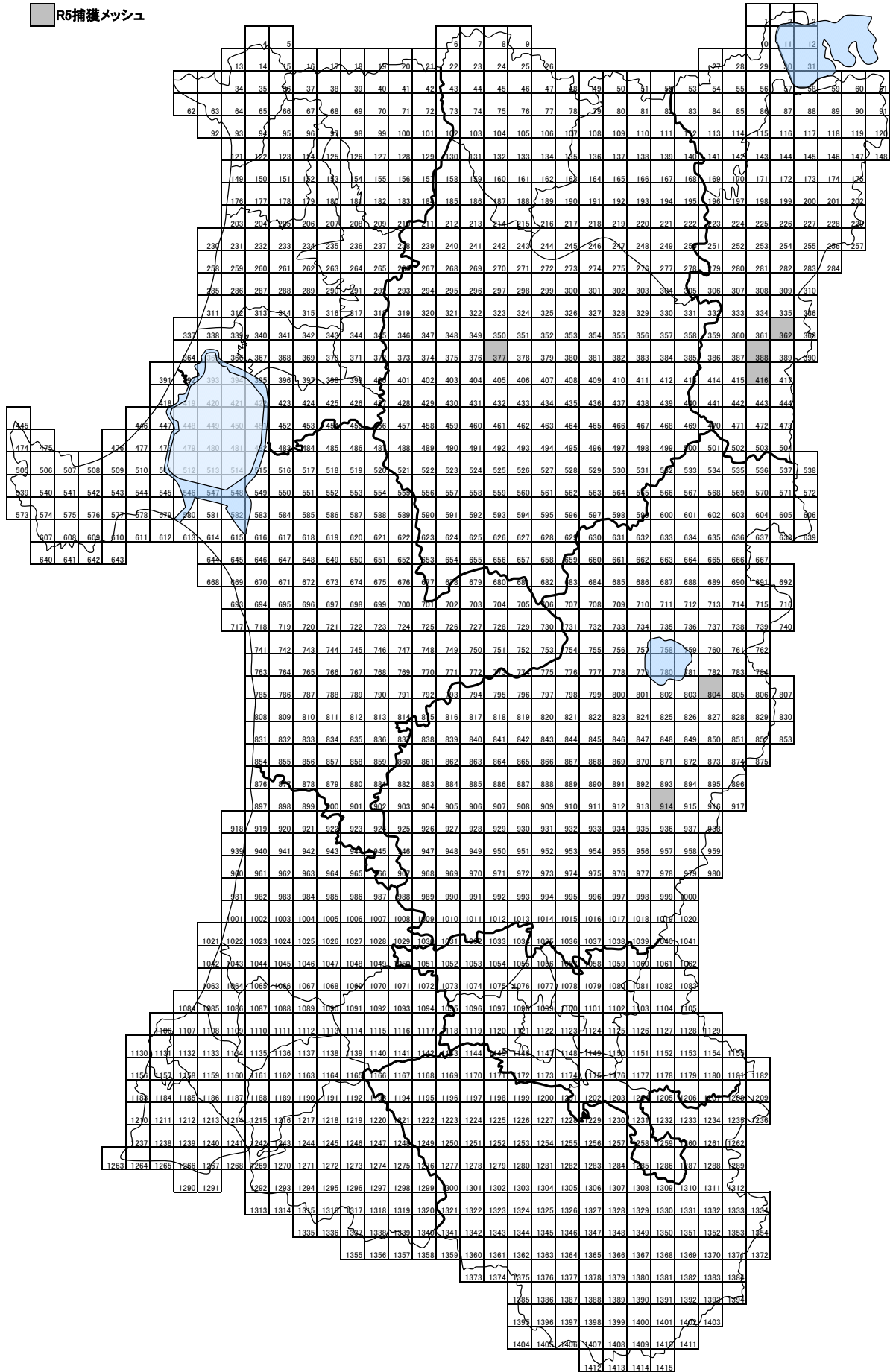
適正な捕獲が実施されたかを確認する手法 ・写真及び捕獲調書により確認。
--

捕獲手法は、地域により様々なものが想定されることから、下記の定義は本評価シートでの暫定的なものです。

誘引狙撃	餌等により、対象種を誘引し、所定の位置から銃器により捕獲等する 猟法。
巻き狩り	犬や勢子により追い出した対象種を、所定の位置で待機する射手が銃 器で捕獲等する猟法。
忍び猟	単独の射手が徒歩で対象種を追跡して、射撃可能な地点で銃器により 捕獲等する猟法。
車両を用いたモ バイルカリング	所定の巡回ルートを車両で移動し、射撃可能な位置の対象種を銃器に より捕獲等する猟法。
夜間銃猟	法律上必要な手続を全て完了した上で、日出前若しくは日没後におい てする銃器を使用した鳥獣の捕獲等。

R5指定管理鳥獣捕獲等事業 捕獲実績(ニホンジカ)

R5捕獲メッシュ



R5指定管理鳥獣捕獲等事業 目撃効率(ニホンジカ)

